

湯檜曾川支流東黒沢丸山沢・白毛門沢

大竹 幹衛

■山行年月日:2021年

7月16日～17日

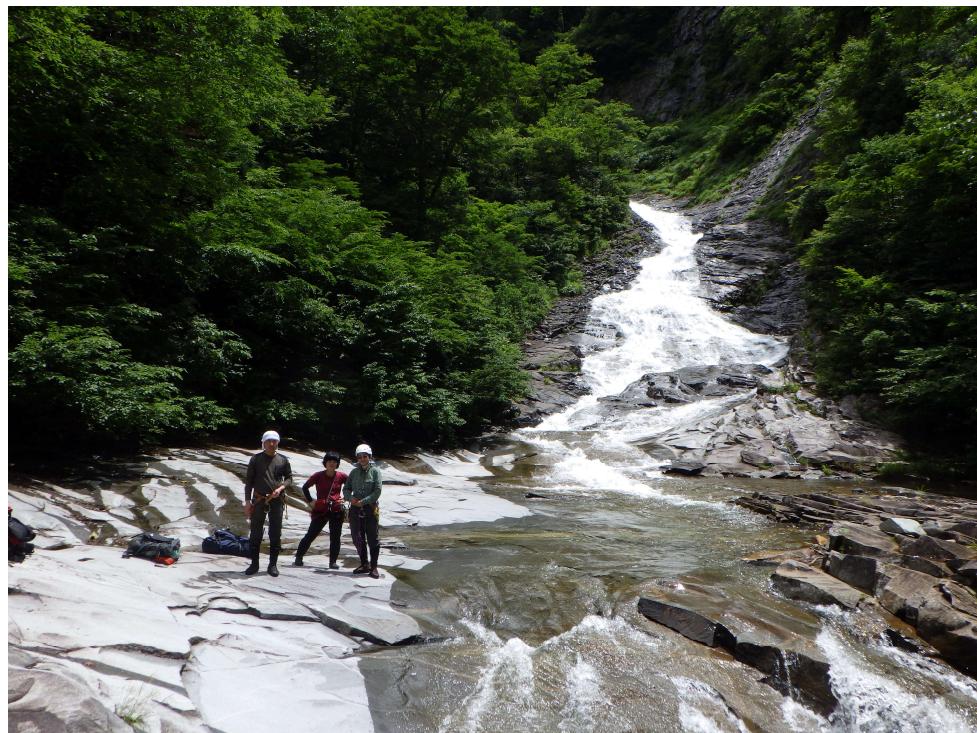
■メンバー:大竹幹衛、大竹尚子、
増田寿代、小沼充範

この山行は浦和浪漫山岳会の会報「渓」18号の「綺麗な赤いナメが延々と続く」との記録を読んだ時から始まった。一目その延々と続くナメを見てみたいと思いました。

16日早朝4:30、磐越道～北陸道～関越道水上ICで下車する。白毛門山登山口の駐8:40着。増田さんとは9時過ぎ

に合流出来た。東黒沢に10分ほど入った右岸の砂地を今晚の幕場と決めて幕営用具、炊事用具等々をデポしました。明日は白毛門沢を登り、登山道を下る予定なので奥には設営したくなかったのです。

サブで10時行動開始。今日は13時ごろまで行動し、戻って来る予定だ。しばらく遡行すると美しいハナゲノ滝だ。右岸を登るが巻き道もある。この上にもナメがあり右、左とトラバースして越えていく。白毛門沢の出会いはすぐであった。本流を遡行するとナメ、滝と次々とでてくるが高



ハナゲノ滝



東黒沢中間部の滝

巻きした滝は 2 つだけであった。次の支流の出合いは左が本流である。そこを遡行していくとありました。延々と続くナメが。これでもか、これでもかと続きます。長いこと沢登りをやっていますがこんなに続く美しいナメ滝は初めてです。今回の目的は達成されました。

最後のナメから少し遡行し、13:30、沢の分岐点から戻ることにしました。私はラバーソールの沢靴を履いていたため多少滑りました。幕営地に戻ったのは16時を過ぎていました。焚き火を囲んで沢の夕餉を楽しんだのは言うまでもありません。ここは標高が低いため夜でも暑かったです。

17日。今日は白毛門沢を登り、白毛門山から登山道を下山して戻って来る予定です。5:30。幕営地をでる。尚子は膝が痛いとのことで中止にしました。残念ながら仕方ありません。今日もいいお天気です。増田さんは過去に途中まで遡行したことがあるとか。

白毛門沢は白山書房「関東周辺の沢」で「2 級、前夜発日帰り」と詳し

く紹介されています。沢グレート 2 級とありますが私には 3 級はある。と感じました。それは高齢者になり、体力的にも技術的にも衰えたからに他ありません。「タラタラのセン」の大滝の高巻きに少し間違った他は順調に行動出来ました。

大高巻きを終了し沢に戻った時に 3 人のパーティに抜かれました。水のあるうちにランチタイムとしました。最後の山頂までのツメは急登の連続でキツかったです。山頂着 11:55。山頂からの眺望は一の倉沢、幽の沢の岩壁が良く見えて若い頃の思い出が甦ってきました。

記念撮影の後、下山に取りかかりました。標高差 1030mを下ります。暑くて汗だくになりながらガンガン下りました。登山口駐車場 14:30 着。駐車場の脇に水場があり、タオルで身体を拭いて着替えました。お疲れ様です。小沼がその日、夜勤があるという事で急いで帰宅しました。



白毛門山頂